

## 週日の説教

金 大烈 神父 2010年11月23日(火)

《神様への絶対的な信頼 - どのような状況も神様からの一番素晴らしい贈り物 - 》

皆様は、今の生き方に満足していますか。今の仕事、やっているいろいろなことに満足しているのでしょうか。それとも不満があるのでしょうか。人によって違うとは思いますが、人間は大体、自分ができなかったことに憧れを持つ傾向があります。「もしあの時別の道を選んでいたら、このような状況にはならなかったのだろう。違う自分になっていたのだろう。」と思うのは当たり前のことです。たとえば、ご主人が「もし妻に出会わなかったらもっと幸せだったかもしれない。」と思うこともあるでしょう(笑)。私も、「もし日本ではなくてアフリカに行っていたら、もっとやりがいのある司祭の生活ができたのではないか。」と思うこともあります(笑)。皆様も子どもの時からの憧れの仕事とは違う道に来てしまい、落ち込んでしまうこともあるでしょう。誰にでもあることです。私も、「目上の人達の言葉に素直に従っていたら、今とは違う状況になっていたのだろう。」と思うこともあります。しかし、今の皆様の状況は、ある意味では神様が守ってくださったからこのようになったのではないのでしょうか。そのように考えてほしいと思います。

ある人は、毎日が同じように繰り返されることに不満があります。朝起きて顔を洗い、朝ご飯を食べて、バスに乗って会社へ行き、一日ストレスを受けて、家に帰ったら缶ビール1本を飲んで、お風呂に入って寝る。このように繰り返される自分の人生が虚しく思えるのです。皆様もそういうことがあるでしょう。毎日同じことばかりの自分の人生が、「もったいない」と思い、もう少し刺激があって、面白くて、建設的で、創造的な仕事をしたいと思うことがあるでしょう。きっとあると思います。ところが、別のある人はこのように思っています。その人は、郵便局で働いていて、毎日回収される封筒にスタンプを押す仕事をしています。周りの人からは、「毎日同じようにスタンプを押すだけの仕事で、うんざりしているでしょう。やりがいを感ぜられないでしょう。」と言われます。しかしその人は、「いいえ、そんなことはありません。私は毎日同じことをしているのではなくて、違う日付のスタンプを押しているのです。毎日誰かの心がこめられている封筒に心をこめてその日の日付のスタンプを押しているのです。自分の仕事には、やりがいを感じています。」と答えています。

その話を聞いて、「確かにそうかもしれない」と思いました。文句を言う人は、どんな条件が与えられても文句を言うのでしょうか。感謝できる人は、どんな状況に陥っても、感謝できるのでしょうか。私達の周りには、笑顔を作れるような環境ではないのに、素晴らしい笑顔を見せている人が取り上げられています。そして逆に、恵まれた条件を全て持っていながらいつも不満そうな顔ばかりしている人もいます。どういう環境でも、どういう条件でも、『感謝する』ことができれば、一番素晴らしい人生になるのではないのでしょうか。子どもの時に憧れた人生ではないかもしれませんが、一番素晴らしい贈り物が与えられたと感謝するべきでしょう。

なぜ今日このような話をするのかというと、今日の福音(ルカ 21・5 11)に関係あるからです。この1、2週間、ずっと同じ内容が読まれているのですが、2000年前のイスラエル人は、ローマという大きな国に支配されていました。だから、いつも緊張感、被害意識、殺されるかもしれないという恐れを抱いて生きていました。そのような時代なので、いろいろな預言者、預言者だと自称する者たちが現れました。そして旧約聖書で話されている『人類の終末』をいつも気にしていました。ですからイエス様の「このエルサレムの大聖殿も崩れる」という話を聞いた時に、人々が「それはいつでしょうか。そして印は何でしょうか。」と聞いたのは当たり前のことでした。

今日の福音をどのように解釈すべきか、一言だけ申し上げます。信仰を持っているのなら、どのようなことが起こっても、イエス様への絶対的な信頼を持ち、今、しなければならないことをすべきだ、ということです。そのような気持ちがあれば、あらゆる恐怖や恐れを十分に乗り越えられると思います。それがイエス様の福音ではないかと思います。

ありがとうございました。